

第20項 問題行動と親しい友人の有無（異性）との関連

①問題行動の実体験の有無と親しい友人（異性）の有無

高校生の異性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験との関連を検討するため、問題行動の実体験頻度を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-20-1に示す。

その結果、飲酒と暴行に関して異性の友人の有無による主効果が見られた。いずれにおいても異性の親しい友人のいない者より、いる者のほうが問題行動の体験頻度は多かった。すなわち、異性の親しい友人がいる者の方がより問題行動を起こしやすいことが示された。

さらに、恐喝については、交互作用が見られ、異性の親しい友人のいない男子が、有意に恐喝の実体験頻度が高かった。

表4-20-1 問題行動の実体験の有無と親しい友人（異性）

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
飲酒	2.38(1.02)	2.44(.96)	1.83(.88)	2.35(.90)	F(1,576)=12.06**(有無)
恐喝	1.16(.54)	1.06(.31)	1.00(.00)	1.01(.09)	F(1,576)=5.48*(交互作用)
暴行	1.45(.71)	1.55(.69)	1.05(.21)	1.13(.38)	F(1,574)=4.01*(有無)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

②問題行動に対する意識と親しい友人（異性）の有無

高校生の異性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」との関連を検討するため、問題行動の「いけなさ」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-20-2に示す。

その結果、飲酒、自転車・バイク盗み、性行為の強要について交互作用が見られた。いずれにおいても、女子より男子の方が「いけなさ」得点は高いが、男子では親しい異性の友人のいる者よりいない者の方が、「いけなさ」得点が高くなるのに対し、女子では親しい異性の友人のいない者の方がいる者より「いけなさ」得点が高くなっていた。

表4-20-2 問題行動に対する意識と親しい友人（異性）

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
飲酒	2.24(1.18)	2.36(1.13)	2.85(1.20)	2.46(1.08)	F(1,576)=6.17*(交互作用)
自転車盗	4.30(1.11)	4.49(.95)	4.85(.49)	4.75(.63)	F(1,575)=4.06*(交互作用)
性強要	4.28(1.26)	4.41(1.04)	4.73(.58)	4.48(.85)	F(1,574)=5.10*(交互作用)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ③問題行動に対する姿勢と親しい友人（異性）の有無

高校生の異性の親しい友人の有無（「いる」「いない」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準），問題行動を「とめるか」との関連を検討するため，問題行動を「とめるか」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-20-3に示す。

その結果、親しい異性の友人の有無による主効果が有意であった問題行動は、暴行、薬物・ドラッグの2種類であった。いずれにおいても、親しい異性の友人のいる者の方が、いない者よりも、「とめるか」得点が高かった。すなわち、親しい異性の友人のいる者は、いない者より、これらの問題行動をしようとしている友人を目撃したとき、より友人をとめることが示された。

さらに、飲酒、無免許運転、恐喝については交互作用が見られた。

飲酒と無免許運転については、男子より女子の方が「とめるか」得点が高く、かつ男子においては親しい異性の友人がいる者の方がいない者よりも「とめるか」得点が高く、女子においては親しい異性の友人がいない者の方がいる者よりも「とめるか」得点が高かった。

また、恐喝については、男子より女子の方が「とめるか」得点が高く、かつ、男子においては親しい異性の友人がいる者の方がいない者より「とめるか」得点が高かった。

表4-20-3 問題行動に対する姿勢と親しい友人（異性）

	男子		女子		主効果・交互作用
	いない	いる	いない	いる	
飲酒	1.68(1.99)	1.86(1.08)	2.56(1.38)	2.05(1.11)	F(1,576)=11.06**(交互作用)
無免許	3.00(1.56)	3.30(1.41)	4.04(1.16)	3.86(1.23)	F(1,576)=4.11*(交互作用)
恐喝	3.73(1.40)	4.18(1.13)	4.56(.81)	4.65(.71)	F(1,575)=4.14*(交互作用)
暴行	3.64(1.36)	3.95(1.21)	4.38(.81)	4.47(.76)	F(1,571)=4.65*(有無)
薬物	4.15(1.35)	4.46(1.15)	4.65(.79)	4.72(.73)	F(1,575)=4.56*(有無)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### 第21項 問題行動と親子関係（父親）との関連

#### ①問題行動の実体験の有無と親子関係（父親）

高校生の父親との関係性（「よい」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準），問題行動の実体験との関連を検討するため，問題行動の実体験頻度を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-21-1に示す。

その結果、飲酒、無免許運転、自転車・バイク盗みの3種類の問題行動に関しては父親との関係性による主効果が見られた。いずれにおいても父親との関係を悪いと感じている者より、良いと感じている者のほうが問題行動の体験頻度は多かった。すなわち、父親との関係が良いと思っている者の方がより問題行動を起こしやすいことが示された。

表4-21-1 問題行動の実体験の有無と親子関係（父親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	良い	悪い	良い	悪い	
飲酒	2.61(0.97)	2.34(0.97)	2.31(1.00)	2.15(0.90)	F(1,572) = 5.29*(関係)
無免許	1.41(0.73)	1.21(0.58)	1.10(0.37)	1.06(0.28)	F(1,572) = 7.17**(関係)
自転車	1.34(0.69)	1.23(0.63)	1.13(0.44)	1.04(0.27)	F(1,572) = 4.13*(関係)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ②問題行動に対する意識と親子関係（父親）

高校生の父親との関係性（「よい」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」との関連を検討するため、問題行動の「いけなさ」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-21-2に示す。

その結果、父親との関係性による主効果が有意であった問題行動は、無免許運転、薬物・ドラッグ、重度の援助交際、性行為の強要の4種類であった。そのいずれにおいても、父親との関係性が悪いと感じている者の方が、良いと感じている者より「いけなさ」得点が高かった。すなわち、父親との関係を悪いと思っている者のほうがよいと思っている者より、これらの問題行動をよりいけなさいことであると思うことが示された。

表4-21-3 問題行動に対する姿勢と親子関係（父親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	良い	悪い	良い	悪い	
無免許	3.80(1.33)	4.08(1.24)	4.17(1.10)	4.48(0.86)	F(1,571) = 7.71**(関係)
薬物	4.30(1.19)	4.45(1.16)	4.57(0.90)	4.83(0.54)	F(1,572) = 5.21*(関係)
重援交	3.48(1.48)	3.76(1.41)	4.21(1.17)	4.53(0.89)	F(1,568) = 6.65**(関係)
性強要	4.25(1.13)	4.41(1.09)	4.29(1.05)	4.64(0.66)	F(1,570) = 7.76**(関係)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ③問題行動に対する姿勢と親子関係（父親）

高校生の父親との関係性（「よい」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」との関連を検討するため、問題行動を「とめるか」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-21-3に示す。

その結果、父親との関係性による主効果が有意であった問題行動は、飲酒、無免許運転、盗み、薬物・ドラッグ、重度の援助交際、性行為の強要の6種類であった。そのいずれにおいても、父親との関係を悪いと思っている者の方が、良いと思っている者よりも、「とめるか」得点が高かった。すなわち、父親との関係が悪いと思っている者は、良いと思っている者より、これらの問題行動をしようとしている友人を目撃したとき、より友人をと

めることが示された。

さらに、自転車・バイク盗みについては交互作用が見られた。男子よりも女子の方が「とめるか」得点が高く、かつ男子においては父親との関係が悪いと思っている者の方が良いと思っている者よりも「とめるか」得点が高かった。すなわち、男子より女子の方が、友人が自転車・バイク盗みをしている友人を見たときより友人をとめようとし、男子においては父親との関係が悪いと思っている者の方が良いと思っている者より、友人が自転車・バイク盗みをしている友人を見たときより友人をとめようとすることが示された。

表4-21-3 問題行動に対する姿勢と親子関係（父親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	良い	悪い	良い	悪い	
飲酒	1.66(1.03)	1.85(1.04)	1.96(1.17)	2.27(1.23)	F(1,572)=4.74*(関係)
無免許	2.93(1.49)	3.30(1.43)	3.73(1.28)	3.96(1.19)	F(1,572)=5.22*(関係)
自転車盗	3.11(1.47)	3.73(1.37)	4.28(0.93)	4.37(0.96)	F(1,572)=5.26*(交互作用)
盗み	3.71(1.40)	4.09(1.26)	4.42(0.90)	4.64(0.71)	F(1,571)=8.64**(関係)
薬物	4.29(1.30)	4.37(1.23)	4.43(0.97)	4.77(0.61)	F(1,571)=4.60*(関係)
重援交	3.24(1.50)	3.52(1.49)	4.21(1.14)	4.55(0.90)	F(1,567)=6.72**(関係)
性強要	3.76(1.45)	4.01(1.32)	4.08(1.15)	4.49(0.83)	F(1,567)=10.68**(関係)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

## 第22項 問題行動と親子関係（母親）との関連

### ①問題行動の実体験の有無と親子関係（母親）

高校生の母親との関係性（「良い」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験との関連を検討するため、問題行動の実体験頻度を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-22-1に示す。

その結果、飲酒、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗みの4種類の問題行動に関して母親との関係性による主効果が見られた。いずれにおいても母親との関係性を悪いと感じている者より、良いと感じている者のほうが問題行動の体験頻度は多かった。すなわち、母親との関係が良いと思っている者の方がより問題行動を起こしやすいことが示された。

表4-22-1 問題行動の実体験の有無と親子関係（母親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	よい	悪い	よい	悪い	
飲酒	2.80(1.00)	2.37(.96)	2.71(.98)	2.11(.89)	F(1,577)=18.40***（関係性）
無免許	1.37(.72)	1.24(.62)	1.27(.67)	1.04(.19)	F(1,577)=8.79**（関係性）
自転車盗	1.30(.60)	1.25(.65)	1.29(.60)	1.03(.24)	F(1,577)=6.17*（関係性）
盗み	1.53(.94)	1.26(.59)	1.41(.81)	1.10(.32)	F(1,576)=19.49***（関係性）

\*p<0.05, \*\*p<0.01

②問題行動に対する意識と親子関係（母親）

高校生の母親との関係性（「良い」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」との関連を検討するため、問題行動の「いけなさ」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-22-2に示す。

その結果、無免許運転、恐喝、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際の4種類の問題行動において交互作用がみられた。無免許運転、恐喝、薬物・ドラッグについては、母親との関係が悪いと思っている女子がよりこれらの問題行動をいけないと思っていることが示された。軽度の援助交際については、男子においては母親との関係性が良いと思っている者の方が悪いと思っている者より「いけなさ」得点が高く、女子においては母親との関係性が悪いと思っている者の方が良いと思っている者より「いけなさ」得点が高かった。

表4-20-2 問題行動に対する意識と親子関係（母親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	よい	悪い	よい	悪い	
無免許	4.03(1.27)	4.00(1.28)	3.71(1.25)	4.51(.84)	F(1,576)=9.12**(交互作用)
恐喝	4.67(.80)	4.56(.96)	4.61(.74)	4.88(.47)	F(1,576)=4.10*(交互作用)
薬物	4.60(.77)	4.38(1.23)	4.46(.87)	4.80(.61)	F(1,577)=5.80*(交互作用)
軽援交	3.47(1.20)	3.17(1.42)	3.05(1.20)	3.88(1.19)	F(1,576)=11.76**(交互作用)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

③問題行動に対する姿勢と親子関係（母親）

高校生の母親との関係性（「良い」「悪い」の2水準）と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」との関連を検討するため、問題行動を「とめるか」を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-22-3に示す。

その結果、母親との関係性による主効果が有意であった問題行動は、飲酒、無免許運転、自転車・バイク盗みの3種類であった。そのいずれにおいても、母親との関係性を悪いと思っている者の方が、良いと思っている者よりも、「とめるか」得点が高かった。すなわち、母親との関係が悪いと思っている者は、良いと思っている者より、これらの問題行動をしようとしている友人を目撃したとき、より友人をとめることが示された。

表4-22-3 問題行動に対する姿勢と親子関係（母親）

	男子		女子		主効果・交互作用
	よい	悪い	よい	悪い	
飲酒	1.63(1.13)	1.84(1.05)	1.78(1.08)	2.26(1.23)	F(1,577)=5.40*(関係)
無免許	3.10(1.54)	3.21(1.46)	3.29(1.42)	4.00(1.16)	F(1,577)=5.81*(関係)

\*p<0.05, \*\*p<0.01